

# Changing Mexico: Multidimensional analysis of the current situation of Mexico

Taku Okabe

Juan Emmanuel Delva Benavides

Ana Virginia Solis Stas

Gelacio Juan Ramón Gutiérrez Ocegueda

Edgar Gutiérrez Aceves

Salvador Carrillo Regalado

2019年3月

The Institute for Economic Studies

Seijo University

6-1-20, Seijo, Setagaya

Tokyo 157-8511, Japan



# CONTENTS

まえがき — 2018 年メキシコ大統領選を終えて	…………… 岡部 拓 …………… 1
ECOMMERCE AND LOCAL COMMERCE ON SOCIAL NETWORKS IN MEXICO AND ITS REGULATIONS	…………… Juan Emmanuel Delva Benavides …………… 9 Ana Virginia Solis Stas
REFORMED INSTITUTIONAL STRUCTURE OF NATURAL GAS IN MEXICO	…………… Gelacio Juan Ramón Gutiérrez Ocegueda …………… 27 Edgar Gutiérrez Aceves
移民とクオリティ・オブ・ライフ： メキシコ・グアナファト州在留邦人に見られる異なる価値観	…………… Salvador Carrillo Regalado …………… 45

# 移民とクオリティ・オブ・ライフ： メキシコ・グアナファト州在留邦人に見られる 異なる価値観

サルバドール・カリージョ＝レガラード (Salvador Carrillo Regalado)<sup>1)</sup>

(岡部拓訳)

## Abstract

This article presents the multidimensional quality of life indexes of Japanese migrants temporarily expatriated by the companies that employ them in the state of Guanajuato, as well as analyze the relationships between the Quality of Life Index of the migrants with the cities where they live and other personal characteristics. It is hypothetically assumed that the quality of a group and an individual life varies negatively due to the influence of migration, if the migratory origin country is a developed nation and its destined country is a less developed one, such as the flow of people from Japan to Mexico, caused by the creation or expansion of Japanese subsidiary companies in the Central West region. The data source is a questionnaire applied to Japanese employees in management, administrative and engineering positions, and other workers in the subsidiaries located in the state of Guanajuato during the second quarter of 2015. The method used to calculate the indices is min and max aggregation. Statistically, the confidence level of the sample obtained was 90% with 109 cases, and the test of ordinary regression model was applied to measure the differential impact of migration on the quality of life on an individual scale, according to its particular characteristics.

---

1) グアダハラ大学・経済経営学部教授。E-mail: scarrillo.reg@gmail.com。本稿日本語版の構成にあたり、柿原智弘・グアダハラ大学・経済経営学部教授にご協力いただいた。この場を借りて深謝する。

## はじめに

本研究は、極めて特殊な集団のクオリティ・オブ・ライフ (QOL) につき分析する。この特殊性は、顕著な文化的差異のある発展途上国へ向けた先進国からの、ある意味において強制的な形で行われる人の移動 (移民) という行動に起因し、またこの移民ないし移住者は、仕事上の都合により移住したもので、優れた技能を有し、その大半は移住地に永住する意思のないものである (メキシコにおける勤務は 2~3 年と短期である)。さらにスペイン語を話さず、また習得する意思もないため、同胞者とのコミュニティ外ではその生活が困難である<sup>2)</sup>。

多国籍企業による投資を誘因する要素となりうる、あるいは少なくとも移民者の居住地候補となりうる受入都市において保たれる QOL につき違いがあること、また民間ないし公的な施策を通じて、移民を含むすべての住民の QOL を向上させる可能性があることから、かかる調査分析は有意義なものである。

かくして本研究は、一般的な国際移民の QOL を評価する研究とは様相を異にする。けだし、それらの研究の大半は、職を求めあるいは生活環境を向上させる意思をもって、より貧しい国からより発展している国への人の移動につき分析するものだからである。このため、それらの先行研究は、生活環境の向上があったか否かを評価すべく QOL を分析し、通常は調査対象が、その滞在の違法性、低い教育レベルや医療サービス、あるいは居住国の言語を習得していないことから悪化する人種的迫害を受ける極めて脆弱な移民となっている<sup>3)</sup>。

60 年代に始まり今日に至るまでの日本人移民の現代的潮流は、対メキシコ日本投資の動向と関連性がみられ、そこでは技術者や役員レベルの日本人移民がある (Ota, 1985: pp. 113-115; Romero, 2001: p. 146)。

現在は、メキシコ中西部に居住する在留邦人として 5,266 名が在メキシコ

---

2) Padilla (2008) を参照しつつ、Nakasone は「アグアスカリエンテス州に居住する日本人は、日本人同士で生活する傾向があり、外部で起こることにつき無関心で、“日本で起こったことを会話にあげつつ、常に日本と通じた生活をしている”」とする (Nakasone, 2016: p. 62)。

3) たとえば以下の文献を参照されたい：García y Oliva (2009); Urzúa, et. al. (2015); Murillo y Molero (2012); De Luca y Nekane (2011)。

大使館に登録されている。これは、メキシコに在住する日本人の永住者 (migrantes permanentes) と長期滞在者 (migrantes temporales) の合計の 42.6% に達する<sup>4)</sup>。

メキシコ・シティ (Ciudad de México) に次いで、グアナファト州 (Guanajuato) およびアグアスカリエンテス州 (Aguascalientes) が、日本人移民の主たる受入れ地域・州となっている。これは日本の自動車メーカーあるいは産業網を構成する企業が多く設立されているためである。

メキシコ外国投資登録簿 (Registro Nacional de Inversión Extranjera) (Secretaría de Economía, 2018) によれば、2017 年 10 月の時点で、メキシコ中西部には 331 の日系企業が存立しており、これはメキシコ全国のその 41.6% に相当する。これら日系企業のメキシコにおけるプレゼンスとこれに付随する形での日本からの移住者の関連性を鑑みて、本研究は、以下の二つの問いの回答を導こうとするものである：日系企業に勤務すべく日本から一時的に派遣された長期滞在者の多次元にわたる QOL のレベルはいかなる位置づけにあるか；その QOL が、個々人の特質やその居住する規模の異なる都市といかなる関連性があるか。

メキシコ中西部の在留邦人の約 90% は長期滞在者である特色が見受けられる。在メキシコ日本大使館によれば、平均してその滞在期間は 2 年間である。結果として、残りの 10% が永住者に区分されるものとなる。これらの移民の社会・文化的融合 (integración sociocultural) については先行研究が少ない。QOL についての研究も同様である。この後者についていえば、日本人移住者に関する労働上および個人的な側面において、実際的な重要性を帯びるものとなる。これは、一方において、メキシコの一般的生活に融合することにつき様々な障害があり、他方で、メキシコ人労働者と日常接するうえで、異なる文化的価値観を理解するのが困難である、という状況があるからである (Nakasone, 2015)。

上述したことを踏まえ、本研究は、グアナファト州の在留邦人の多次元

---

4) 在メキシコ日本大使館は、永住者を「メキシコ政府 (移民局: Instituto Nacional de Migración) により付与された恒常的居住者 (residente permanente) なる滞在資格を有する者で、かつ同大使館に対し、メキシコに無期限で滞在する意思 (通例、メキシコ国内で経済的にも安定した状態であるか、あるいは確固とした雇用のあるため) を表明している者」と定義している。他方、長期滞在者とは「一時的居住者 (residente temporal) なる滞在資格を有する者で、かつ同大使館に対し日本に帰国する意思を表明している者」で、本研究の場合、それらの者をメキシコで雇用する日系企業の意向で帰国となる (おおよそ 2 年程度)。

(multidimensional) にわたる QOL のレベルを検証する。さらに、QOL 指数 (Índice de Calidad de Vida) と居住都市および個々人の特質との間にみられる関連性についても分析を行う。この意味で、在留邦人の QOL 指数の構築は、客観的な要素ないし次元 (dimensiones) のほか、サービスの質の認識などの主観的な効果をも考慮しつつ行うものとし、かくして、QOL の研究において一般的に用いられる方法に依拠するものである。なお本研究において QOL とは、世界保健機構や国連開発計画に従い、物理的、精神的、社会的ならびに環境的な福祉からなる複合的な尺度として広く専門的文献において用いられる一般的概念を指すものである。とはいえ、本研究では「環境的」次元は考慮に入れないものとする。この方法によって、測定された値が総合的な満足度を表象しうるものとなり、また仔細には、QOL 指数構築において含まれる個々の側面ないし次元についても可能となる。

一般的には、本研究の調査対象である海外派遣される日本人は、一定の技能を有し、日本において中程度ないし高度な社会経済的レベルにあるものと推定される。かくして、メキシコに派遣される日本人は、日本あるいはその他の外国 (特にアメリカ合衆国) におけるその生活経験から一定の QOL を想定して着任する。そしてこれは、メキシコにおける彼らの生活環境の質を推し測るため、あるいはその要求するレベルとして指標となる。これはさらに、その居住する都市によっても様々な事象が窺えるであろう (Alguacil, 2000; Velázquez, 1998; Velázquez y Cepeda, 2004; Rojas, 2009)。上記のことから、「メキシコ在留邦人の QOL レベルは、比較的発展した国から来る者の期待するところとは同じではなく、さらに全く異なる文化に直面せざるを得ず、これによりメキシコにおける生活上、様々な次元において消極的な影響をもたらす。とはいえ、その居住する都市は、その規模に従い、異なる QOL レベルをもたらす」という仮説を立てることができる。

本研究の背景として、グアナファト州は、メキシコの中西部において最も重要な地域である。このため本研究の対象として取り上げた。同州は、マツダやホンダなどの自動車メーカーをはじめとして極めて多くの自動車産業関連日系企業を受け入れている。調査をするにあたり、グアダハラ大学・経済経営学部・「日墨研究プログラム (PROMEJ)」に参加する研究者で、2015 年 5 月に日系企業に勤務する在留邦人に対してアンケート調査を行った。同アンケートは、

QOL に関連する様々な社会的次元を網羅するものである（図 4 参照）。本調査を行うにあたり、グアナファト州・イラブアト市 (Irapuato) にある日本商工会議所にもご協力いただき、109 人の在留日本人の回答サンプルを収集することができた。

## 1. 対メキシコ直接投資と日系企業

図 1 に従えば、日本資本の入った企業はメキシコで極めて重要なプレゼンスを示している。特に 2011 年以降、メキシコに存立する日系企業の 66% は中西部に集中しており、その大半が自動車産業関連企業である<sup>5)</sup>。日系企業のこのような近時の地域的集積は、メキシコ在留邦人の動向とも関わってきている。

## 2. メキシコにおける日本人移住者と中西部

メキシコにおける日系企業数の拡大とともに、日本人たる専門家、翻訳家、技術者、役員ないし経営者、ならびにその家族の移住が見られる。その動向は

図 1 メキシコおよび中西部における日系企業数（2000 年—2017 年）  
単位：企業数

州 / 地域	メキシコ外国投資登録簿への登録時期別日系企業数				合計
	～2000 年	2001 年 - 2005 年	2006 年 - 2010 年	2011 年 - 2017 年	
アグアスカリエンテス州	9	10	8	50	77
グアナファト州	3	3	7	117	130
ハリスコ州	5	1	5	22	33
ケレタロ州	9	4	2	30	45
サン・ルイス・ポトシ州	2	1	1	33	37
ミチョアカン州 (Michoacán) およびサカテカス州 (Zacatecas)	2	0	2	5	9
<b>中西部合計</b>	<b>30</b>	<b>19</b>	<b>25</b>	<b>257</b>	<b>331</b>
メキシコシティ	78	25	34	94	231
メキシコのその他の諸州	113	43	39	38	233
<b>メキシコ全体の合計</b>	<b>221</b>	<b>87</b>	<b>98</b>	<b>389</b>	<b>795</b>

出所：Secretaría de Economía (2018)

5) メキシコ日本商工会議所 (2017) によれば、2017 年には、日系企業の 64% が自動車産業関連のものであり、14% が商業、残りはそのほかの製造業、運送業ないしその他のサービス業に従事するものであった。

2009年からより顕著となってきた（図2参照）。

州ごとの在留邦人の分布を分析すると、それが日系企業の設立地分布に従う形となっており、企業の工場などの開設と日本人移民の動向との関連性が確認できる。かくして、図3にみられるように、メキシコ・シティに次いで、グアナファト州が日本人移民を受入れている州として突出しており、アグアスカリエンテス州、ハリスコ州 (Jalisco)、ケレタロ州 (Querétaro) そしてサン・ルイス・ポトシ州 (San Luis Potosi) と続く。総じて、この地域は5,266人の在留邦人を擁するものとなり、これはメキシコ全体の46.2%、さらに長期滞在者の53.4%に相当するものとなる。なおこの長期滞在者としては、メキシコ中西部

図2 メキシコにおける日本人移住者数（2005年—2016年）

単位：人数

年	長期滞在者	永住者	移住者総数	年増加数	総数に対する長期滞在者の割合 (%)
2005	3,528	2,002	5,530		63.8
2009	4,408	2,093	6,501	455	67.8
2010	4,816	2,121	6,937	436	69.4
2011	5,117	2,186	7,303	366	70.1
2012	5,839	2,256	8,095	792*	72.1
2013	6,086	2,301	8,387	292	72.6
2014	6,835	2,351	9,186	799*	74.4
2015	6,950	2,487	9,437	251	73.6
2016	8,846	2,544	11,390	1,953	77.7

\*/ マツダおよび自動車関連サプライヤーの工場建設および操業の時期と一致。  
出所：外務省 (2016)

図3 メキシコおよび中西部の日本人長期滞在者・永住者数

単位：人数

州 / 地域	長期滞在者	永住者	移住者総数	2015年—2016年間の増加数
アグアスカリエンテス州	1,239	101	1,340	420
グアナファト州	2,029	115	2,144	714
ハリスコ州	461	204	665	140
ケレタロ州	581	63	644	215
サン・ルイス・ポトシ州	306	15	321	98
サカテカス州	53	2	55	12
ミチョアカン州	23	24	47	-1
コリマ州 (Colima) および ナジャリー州 (Nayarit)	31	19	50	0
<b>中西部合計</b>	<b>4,723</b>	<b>543</b>	<b>5,266</b>	<b>1,598</b>
メキシコシティ	2,389	1,029	3,418	208
メキシコのその他の諸州	1,734	972	2,706	147
<b>メキシコ全体の合計</b>	<b>8,846</b>	<b>2,544</b>	<b>11,390</b>	<b>1,953</b>

出所：外務省 (2017)



全体のその 90% を占めるものである。

### 3. 2015 年におけるグアナファト州在留邦人の QOL

冒頭にも述べたように、QOL とは、個人ないし集団の認識するところに従い、物理的、精神的、社会的ならびに環境的な福祉からなる複合的な尺度として、世界保健機構や国連開発計画をはじめ、広く専門的文献において用いられる一般的概念を指すものである<sup>6)</sup>。とはいえ、本研究では「環境的」次元は考慮に入れていない。この方法によって、測定された値が総合的な満足度を表象しうるものとなり、また仔細には、QOL 指数構築において含まれる様々な要素についても可能となる。本研究で分析した要素は以下である：1) 都市交通；2) 一般的な健康状態および医療保険；3) 医療施設の質；4) メキシコの慣習ないし信条の不適合；5) 文化的融合；6) 子供の教育；7) 居住地域の都市インフラ；8) 住居の質；9) 消費の質および生活費；10) 個人の安全；ならびに 11) 幸福度。

#### 3.1 用いた指数の方法論

用いた次元については、都市部における QOL 指数を測定できるよう調整してある。また次元と指標は図 4 に示したとおりである。

次元ごとの指数の算出方法は、その単純さから広くもちいられ、またよく知られるものである、最大値・最低値による集計とした。その有用性は、集計および平均化しうる共通のあるいは比較しうる間隔での変数ないし指標の値を標準化することにある。本研究の場合、次元の構築において各指標が同じ重要性あるいは重みを持つという前提で、この集計を行うものである (Brenes y Gutiérrez, 2007; Leva, 2005; Jiménez y González, 2014)。

QOL 指数の推定は、次元および個々のケースに従い行った。一連の指標の指数の平均はひとつの次元に相当するもので、加重平均は適用されない。そのため、「健康」など与えられた次元につき「質に関わる線形指数 (índice lineal de calidad)」となり、その値はさらにその他の次元の値と一緒に集計あるいは

---

6) 以下の文献でも参考とされる概念である：Levi y Anderson (1980); Constanza, et. al. (2008); Orellana, et. al. (2013).

図 4 QOL 指数構築のため用いられた指標一覧

次元	分析指標・要素				
1 都市交通	移動形態	運転マナーと交通習慣			
2 健康	全般的な健康状態に関する認識	医療保険の便益			
3 医療施設の質	医療施設における対応	医療施設設備の質			
4 メキシコの慣習・信条の適合性	チップの支払	宗教観	挨拶マナー		
5 文化的融合	スペイン語の習得	スペイン語の事前の習得			
6 子供の教育の質	教育の質	公立・私立の別	日本方式の教育システムの有無とその質		
7 居住地域の都市インフラ	道路舗装、水道ならびに下水設備の不具合	電力の安定供給	交通渋滞と交通網	通信サービス	娯楽施設と商業モデル
8 住居の質	住居の質に関する主観的認識	賃貸料			
9 消費の質と生活費	消費財・サービスの質とコスト				
10 居住地域の治安	過去 3 年間における居住地域での盗難被害	過去 3 年間における居住地域での詐欺被害	居住地域を歩く際の治安に関する主観的認識		
11 メキシコにおける幸福度	幸福度の主観的認識				

出所：PROMEJ (2015) に基づき筆者作成

平均化することができ、また「総合的 QOL 指数」の値を求めることも可能となる。

使用されたサンプルのほぼすべての変数は名目的ないし質的・定性的なものであり、そのため、データの統計分析は情報の種類に従って行うものとした。とはいえ、各変数は有効に QOL 指数の構成要素に加減することができる。かくして変動の尺度に変換しまた集計処理をすることが可能となる。統計的に、90%の信頼度のあるサンプルで、かつ（次元別）QOL 指数の構築のための 109 のサンプル、また（個別の）QOL 指数に関する 98 のサンプルを収集した。後者のサンプルは、ロバスト検定を用いた最小二乗法の回帰モデルによる統計分析をなすため利用した。これにより、在留邦人の個人的特性に従って、個々のレベルでの QOL における異なるインパクトを推計した。

### 3.2 アンケート調査における母集団と分析の社会的単位

本研究の対象となる集団は、主として日系企業に一時的な形で勤務する日本人移住者によって構成され、グアナファト州には 623 人の移住者があると推定される<sup>7)</sup>。さらに、PROMEJ の調査 (PROMEJ, 2015) に従えば、その 92.8% は男性で、7.2%が女性であり、78.6%が既婚者で 21.4%が独身である。

これら 623 人の在留邦人は、326 人の扶養家族（配偶者および子供）を伴うものである<sup>8)</sup>。日系企業に勤務する在留邦人につき、家族ごとの子供の数の平均は 1.83 人で（PROMEJ, 2015）、配偶者を含む扶養家族の平均は 2.83 人となる。かくして、母集団のうち 115 人の在留邦人が家族同伴で移住したものとなり、その割合は 18.5%である。最後に、グアナファト州において日本人が居住する都市は、収集したサンプル（PROMEJ, 2015）に従えば、レオン市（León）（27%）、イラプアト市（37.5%）、サラマンカ市（Salamanca）（29.4%）そしてセラージャ市（Celaya）（6.3%）となっている。

### 3.3 次元別 QOL 指数の結果

図 5 は QOL 指数の次元ごとに分類した結果を示している。同指数は値の高い順に並べてあり、最高値は約 88%で、最低値は 9%であり、平均値は 60%である。以下で次元ごとに得られた結果を記すものとする。

まず最初に、個人の安全に関する値は高い（87%）。とくにこの指数は、主観的情報・認識に由来するものであり、とはいえ、客観的な情報、つまり盗難、傷害、詐欺などの事件あるいは危険な状況に遭遇した頻度によっても測定した。一般的に、このような事件・事故に遭遇した頻度は低いものの、在留日本人は、

図 5 2015 年におけるグアナファト州在留日本人の QOL 指数

次元	次元別 QOL 指数 (%)
居住地域の治安	87
都市交通	86
メキシコの慣習・信条の適合性	83
居住地域の都市インフラ	78
メキシコにおける幸福度	74
健康	61
消費の質と生活費	57
住居の質	51
医療施設の質	40
子供の教育の質	33
文化的融合	9
合計	659
総合的 QOL 指数 1（すべての指数を含む）	60
総合的 QOL 指数 2（教育・幸福度を除く）	61

出所：PROMEJ (2015) に基づき筆者作成

7) 外務省 (2016) に基づく推計。

8) 外務省 (2016) に基づき独自に推計。

居住地域でさえも一人で歩くような行動につき不安を持っている。サンプルに従えば、メキシコの諸都市において頻繁に起こる暴力的事案は、個人的にもまたその家族にも影響は与えるものではないが、しかし、市内の特定の場所には立ち入らない、あるいは公共交通手段の利用を避けるような勧告を受けている。ここで測定された治安に関する指数は、回答者の居住地域以外の治安に関する主観的認識を表象するものではない。これが、個人の安全に関する指数の高い値の遠因になっていると考えられる。

次に、都市交通という次元も極めて高い値を記録している（86%）。これは、交通状況によっては不都合（渋滞）があり、またグアナファト州の諸都市における車利用者の“運転マナー”に直面するとしても、自家用車を通常利用していることに由来している。

図5によると、80%を超える3番目の指数は「メキシコの慣習・信条の適合性」であり、この結果から、在留日本人はこの要因による問題はないが、ただしメキシコの慣習や信条に適合しているものではない、と結論できる。つまり大半は、通常生活においてその他の日本人とのコミュニティでの関係を維持しているのである。この乖離は、一方で、文化的融合指数（9%）で得られた最小値と関連するもので、これはスペイン語を習得することにほぼ関心がない（日本人労働者の15%のみがスペイン語を学んでいる）ことから示され、また他方で、（アンケート調査と並行して行った面談において言われたように）娯楽施設の利用やイベントに参加する機会が限定されている、という事情にも関連する。この意味で、スペイン語を話すことも習得することもない在留日本人は、それを実践する者と比較して、QOL指数レベルにおいておおよそ7%低い値を記録するものと評価できる。

「居住地区における都市インフラの質」に関して、指数の要素となるものにおいて、在留日本人にはいくつか大きな不満のあることが分かった。たとえば、水や電力の安定した供給がないことや娯楽施設が不足していること、である。とはいえ、指数自体は78%を記録しており、総合的QOL指数の平均値よりも極めて高いものとなっている（図5参照）。

「メキシコに居住するうえでの幸福度」は74%を記録しており、これも（教育・幸福度を除いた）総合的QOL指数の61%（図5参照）を上回っている。これは、生活も文化環境も全く異なる国に居住するとしても、その生活の異なる

次元に関するそれぞれの条件や意見に従って、期待するもの以上に幸福であると考えた人間の傾向があることを示すものであろう。

一方、「健康」に関する指数は平均値と同じ 61%を記録している。この次元は二つの指標から決定されるものである。ひとつは主観的指標（大半が普通の健康状態を保っていると回答）で、もう一つの指標は客観的なものであり、ここでは 3 分の 2 の回答者が民間の医療保険に加入している、という点である。他方、医療施設の質に関する指数は 40%であり、つまり 21%低い値となっている。これは、とりわけ民間保険やメキシコ社会保障制度 (IMSS) 関連の病院における不十分な設備や、一定の場合、医療サービスの質の悪さに起因するものである。

総合的な QOL 指数の平均値を下回る指標として「消費の質と生活費」がある。この次元は一つの指標のみに属するものであるが、広範にわたるアンケート票を通じて収集した、日常生活における消費財・サービスの費用に関する様々な変数の結果である。結論としては、この指数の 57%という値は、一方で日本から輸入される食材の購入とその不十分な種類に主として起因するもので、他方で、通信サービスの質の悪さやその費用にも派生する。

「居住地域における都市インフラ」に関する指数が 78%であるのに対して、「住居の質」に関する指数は 51%にとどまる。この理由には、住居の設備ないし機器の欠如あるいは不十分な保全状態と関係がある。たとえば、防水などの資材の不十分なメンテナンスである。月賃貸費が平均して 1 万～2 万ペソ（と比較的高額）で、良好な住居環境が保証されるべき賃貸基準にも拘わらず、かかる不満がみられるのは、おそらく、賃貸費の上昇がある状況かつ住居自体の質の低さが、グアナファト州の諸都市、とりわけサラマンカ市における住宅供給不足を遠因とすることにある、と考えられる。

最後に、「教育」に関する指数は 33%と最下位から二番目に位置する。総合的に、居住地域においてより良い教育を提供すると考えられる私立学校に通学しているにも拘らず、子供が受ける教育につき、その保護者らは質が低いと判断している。さらに、それら保護者は、イラプアト市にある日本人のための学校で子供らが受ける教育の質につき、平均的であると判断している。これらのことは、教育は一国の文化を構築するためのものであり、まったく異なる国における教育システムを受入れることは困難である、ということを示すものと考

えられ、これが、教育に関する指数の低評価につながり、また家族を同伴しての日本人の移住の障害になっているといえよう。

### 3.4 次元別 QOL 指数に関する結論

1. 本研究の仮説および日本とメキシコの生活レベルの分析に関する先行研究 (Boarini, et. al., 2014) に従えば、QOL ないし幸福度のレベルにつき、グアナファト州の在留邦人には消極的な価値観があると予想される。これは、メキシコにおける（公的たると民間たるとを問わず）財およびサービスの質が、出身国におけるそれよりも低い、あるいはその期待するところと異なる可能性があるためである。同様に、新しい居住地の地場文化に適應することの難しさ、あるいは日本で属する社会階層に由来するその経験からもいえることである。とはいえ、得られた結果は、専門家や企業役員としての地位にある在留邦人に対してメキシコの諸都市がもたらしうるのは、低いあるいは悲惨な QOL であるという想定とは異なるものである。
2. サービスに関する QOL 指数の重要な次元で、特に低い値となったのは、子供の教育（33%）、健康（とりわけ医療施設の質に関して：40%）ならびに住居（51%）であった。これらの次元には、文化的融合の欠如という QOL 指数が低いものも付け加えられる。反対に、個人の安全は、指数の一位の値となっている（85%）。もちろんこれは、個人レベルでの暴力的ないし盗難事件の遭遇頻度を表象したもので、メキシコで起こるその他の事案やリスクなど一般的な情勢を考慮するものではない。
3. 文化的融合（9%）指数の低い値から、在留邦人のメキシコにおける社会文化的乖離というものが窺える。これは、たとえば、スペイン語習得に対する低い関心（日本人労働者の 15%のみがスペイン語習得のために時間を割いていること）や、娯楽施設利用ないしイベントへ参加などが難しいことに起因する。これらが、QOL 指数が低い値となったことに影響している。
4. グアナファト州在留邦人の個人的特色に従った幸福度および QOL 指数の異なる価値観の分析

本節では、(PROMEJ, 2015) で在留邦人に行ったアンケートにより得られた若

干の個別的特色に関わる情報と、総合的 QOL 指数 1 (図 5 参照) における移住者個人につき推定される QOL 指数を基に、様々な最小二乗法回帰モデル分析の結果を紹介する。上記特色は次の変数に相当するものである：i) *icvi g* (「個別 QOL 指数」を示し、0~100%で変動)；ii) *Felicidad* (「メキシコに居住するうえでの個人の幸福度指数」で、0~100%の尺度において、回答の選択肢は 3 つであった)；*Paternidad* (「父性」：一人あるいはそれ以上の子供を持つこと = 1, またモデル分析の結果として「非父性」= 0 とする)；iv) *Familia* (家族同伴での移住 = 1, 単身での移住 = 0)；v) *Edocivil* (当該日本人移住者の民法上の身分：独身 = 0, 既婚あるいは自由結合 = 1)；vi) *Sexo* (女性 = 0, 男性 = 1)；vii) *Ciudad* (居住都市：レオン市, イラプアト市, サラマンカ市)。

分析の方法上、個別 QOL 指数と幸福度指数は、その他の特色に応じた従属変数として代替的に用いられる。形式的には、モデルの機能仕様上、個別 QOL 指数と幸福度指数は、その他の変数とは独立したものであり、それぞれ別個に決定されることを意味する。より良いモデルを構築するため、すべてのデータ (つまり 98 のケース) を用いて解析を行うものとする。さらに、特定の都市の個人のケースについてのデータ、あるいは (サンプル全体の 93% を占める) 男性に関するデータのみを用いて代替的な解析を行った。主たる結果は、統計上 90% の信頼度を持つ諸変数と関連するものである。より有意な結果を得たモデルの仕様は以下である：

- ・モデル 1 :  $Felicidad = f(icvi\_g, Paternidad, Familia, Edocivil, Sexo, Ciudad de León y Ciudad de Irapuato)$ .  
(グアナファト州の前記 3 都市の 98 人の在留邦人のサンプルについて)。
- ・モデル 2 : レオン市についてのみ検定 :  $icvi\_g = f(Paternidad, Felicidad, Edocivil, Sexo)$ .
- ・モデル 3 : イラプアト市についてのみ検定 :  $Felicidad = f(icvi\_g, Paternidad, Familia, Edocivil, Sexo)$
- ・モデル 4 : サラマンカ市についてのみ検定 :  $Felicidad = f(icvi\_g, Paternidad, Familia, Edocivil, Sexo)$

経済研究所研究報告 (2019)

モデル 1 ロバスト線形回帰：3都市、女性ならびに男性すべてのデータを使用  
Felicidad に関する回帰分析

Felicidad	Coef.	Std. Err.	Robust			
			t	P >  t	[95% Conf.	Interval]
icvi_g	.0126898	.0076795	1.65*	0.102	-.0025668	.0279464
paternidad	-.2873539	.1399575	-2.05*	0.043	-.5654039	-.0093038
familia	-.2297224	.2505351	-0.92	0.362	-.727454	.2680093
edocivil	.1278039	.1802224	0.71	0.480	-.2302394	.4858472
sexo	-.5033552	.2587643	-1.95*	0.055	-.017436	.0107253
Cd. León	-.1278736	.171426	-0.75	0.458	-.4684412	.2126939
Cd.Irapuato	-.1929636	.1560264	-1.24	0.219	-.5029374	.1170101
_cons	2.128877	.4651072	4.58	0.000	1.20486	3.052894

\*/ 90%の信頼度で有意

Number of obs = 98; F(7, 90) = 1.64; Prob > F = 0.1341; R-squared = 0.1216

Root MSE = 0.62807

モデル 2 ロバスト線形回帰：レオン市の女性および男性のデータを使用  
ICDV\_g に関する回帰分析

ICDV_g	Coef.	Std. Err.	Robust			
			t	P >  t	[95% Conf.	Interval]
paternidad_g	4.179956	2.467775	1.69*	0.105	-.952063	9.311976
felicidad	.7760349	2.499702	0.31	0.759	-4.422379	5.974449
edocivil_g	-7.223747	1.740779	-4.15*	0.000	-10.8439	-3.603598
sexo_g	8.298911	2.821634	2.94*	0.008	2.431001	14.16682
_cons	59.761	6.89337	8.67	0.000	45.42545	74.09655

\*/ 90%の信頼度で有意

Number of obs = 26; F(4, 21) = 12.15; Prob > F = 0.0000; R-squared = 0.3501

Root MSE = 6.0586.

モデル 3 ロバスト線形回帰：イラプアト市の女性および男性のデータを使用  
Felicidad に関する回帰分析

Felicidad	Coef.	Std. Err.	Robust			
			t	P >  t	[95% Conf.	Interval]
icdv_g	.0197513	.0092525	2.13*	0.041	.0008552	.0386474
paternidad	-.3106445	.2239409	-1.39	0.176	-.7679929	.1467039
familia	-.1211083	.3339447	-0.36	0.719	-.8031144	.5608978
edocivil	-.0501317	.2999078	-0.17	0.868	-.6626252	.5623618
sexo	-.747206	.2697795	-2.77*	0.010	-1.298169	-.1962429
_cons	1.854423	.5386039	3.44	0.002	.7544471	2.954399

\*/ 90%の信頼度で有意

Number of obs = 36; F(5, 30) = 12.74; Prob > F = 0.0000; R-squared = 0.2373

Root MSE = 0.6013.



モデル 4 ロバスト線形回帰：サラマンカ市の女性および男性のデータを使用  
Felicidad に関する回帰分析

Felicidad	Coef.	Std. Err.	Robust			
			t	P >  t	[95% Conf. Interval]	
icdv_g	.0031416	.0135743	0.23	0.819	-.024621	.0309042
paternidad_g	-.1309257	.2563606	-0.51	0.613	-.6552419	.3933906
familia_g	-.479588	.1588408	-3.02	0.005*	-.8044539	-.1547221
edocivil_g	.4887576	.4241614	1.15	0.259	-.3787499	1.356265
sexo_g	-.5112507	.6129196	-0.83	0.411	-1.764812	.7423106
_cons	2.355487	.7553396	3.12	0.004	.8106445	3.90033

\*/ 90%の信頼度で有意

Number of obs = 35; F(5, 29) = 2.13; Prob > F = 0.0907; R-squared = 0.0821

Root MSE = 0.66974

## 5. 個別 QOL 指数に関する結論

1. モデルに従えば、「父性」は幸福度と反比例の関係にある。つまり、メキシコであれ日本であれ子供を持つことは、そうでない者と比較して、メキシコの在留邦人の幸福度を低くする効果がある。とりわけ、在留邦人のおよそ 80% がメキシコに家族を持たず、おそらく、長期にわたり家族と時間を共有することがないと考えられる。
2. モデル 1 によれば、メキシコ在留日本人男性の幸福感は女性のそれよりも低い。とはいえ、女性の個別 QOL 指数は男性と比較して「低い」あるいは「非常に低い」ものとなっている。
3. さらに、モデル 2 に従えば、既婚男性は独身男性よりも低い個別 QOL 指数を記録する。これは、レオン市およびサラマンカ市（モデル 4 参照）について極めて有意である。その理由として、モデル 4 についていえば、個別 QOL 指数の要素には、女性についてのみならず、家族の生活について様々な繊細な側面、たとえば住居の質、メキシコで日本製品や食材を購入できるかどうか、またその価格、子供の教育の質、さらには扶養家族の健康などが含まれるためである。とはいえ、これらの条件・要素は、都市の規模によって変動し、レオン市はより良い生活条件を提供するものとなっている。
4. 一般的に、在留邦人の幸福感は、女性の場合は別として、その QOL 指数が高ければ高いほど大きくなる。この関連性は、統計的に、特に中規模の

都市（たとえば 40 万人を超える人口のあるイラブアト市）の場合により有意となる（モデル 3）。なお部分的にこの関連性は、主観的および客観的次元を基にして構築される個別 QOL 指数の結果はメキシコでの幸福度の純粹に主観的な感覚と相対的に合致する、ということを示している。もちろん、個別 QOL 指数の結果（平均 63%）に従って想定しうるところから、日本人移住者はより幸福と感じる傾向がある（幸福度指数の平均は 74%：図 5 参照）と認められるものではある。総じて、幸福度指数と個別 QOL 指数の関連性は、同二つの指数が高い個人に顕著であり、とくに男性は、幸福度指数が高いうえに、個別 QOL 指数も高くなっている。他方、女性の場合には、幸福度指数は高いものの、個別 QOL 指数は低いことが窺える。

#### 参考文献

- Alguacil, G. J. (2000) “Calidad de Vida y modelo de ciudad”, *Boletín CF + S, No. 15*, España: Instituto Juan Herrera, available at: <http://habitat.aq.upm.es/boletin/n15/ajalg.html>
- Brenes, H. y Gutiérrez, E. E. (2007) “Propuesta de un Índice para la Medición de la Calidad de Vida en Costa Rica”, *Revista de Ciencias Sociales, No. 116*, Costa Rica: Universidad de Costa Rica, available at: <http://www.estadistica.ucr.ac.cr/images/EEST/Documentos/Publicaciones/Revista1.pdf>
- Boarini, R., et. al. (2014) “Measuring well-being and progress in countries at different stages of development: Towards a more universal conceptual framework”, *OECD Development Centre Working Papers, No. 325*, Paris: OECD Publishing, available at: <https://doi.org/10.1787/5jxss4hv2d8n-en>
- Constanza R., et al. (2008) “An integrative approach to quality of life measurement, research, and policy.” *Surveys and Perspectives Integrating Environment and Society*, USA: Vermont University, available at: [www.surv-perspect-integr-enviro-soc.net/1/11/2008/](http://www.surv-perspect-integr-enviro-soc.net/1/11/2008/) doi:10.5194/sapiens-1-11-2008.
- De Luca, S., et. al. (2011) “Adaptación sociocultural de inmigrantes brasileños en el País Vasco: bienestar y aculturación”, *Revista de Psicología Social. Vol. 26, No. 2*, Routledge Taylor & Francis Group (published online), available at: <https://doi.org/10.1174/021347411795448983>
- García-Gómez, P. y Oliva, J. (2009) “Calidad de vida relacionada con la salud en población inmigrante en edad productiva”, *Gaceta Sanitaria. Vol. 23, Suplemento 1*, España: Elsevier España, S.L., available at: <https://doi.org/10.1016/j.gaceta.2009.09.008>
- Jiménez B., W. y González, J. (2014) “Calidad de vida urbana: una propuesta para su evaluación” *Revista de Estudios Sociales, No. 49*, Bogotá: Scielo, available at: [http://www.scielo.org.co/scielo.php?script=sci\\_abstract&pid=S0123-885X2014000200013](http://www.scielo.org.co/scielo.php?script=sci_abstract&pid=S0123-885X2014000200013)
- Leva, G. (2005) *Indicadores de Calidad de Vida Urbana. Teoría y metodología*, Buenos Aires: Habitat Metrópolis, available at: [http://hm.unq.edu.ar/archivos\\_hm/GL\\_ICVU.pdf](http://hm.unq.edu.ar/archivos_hm/GL_ICVU.pdf)
- Levi, L. y Andersson, L. (1980) “La tensión psicosocial”, *Población, ambiente y calidad de vida*,

México: Manual Moderno.

- Murillo M., J. y Molero A., F. (2012) “Factores Psicosociales asociados al bienestar de inmigrantes de origen colombiano en España”, *Psychosocial intervention*, Vol. 21, No. 3, Madrid: SciELO Analytics, available at: <http://dx.doi.org/10.5093/in2012a28>
- Nakasone, T. (2015) “Imágenes sobre los japoneses: una visión de los empleados mexicanos en empresas japonesas”, *México y la cuenca del pacífico*, Vol. 4, No. 11, México: Universidad de Guadalajara.
- (2016) “Los perfiles de los residentes japoneses en Guadalajara en 2009”, *México y la cuenca del pacífico*, Vol. 5, No. 13, México: Universidad de Guadalajara.
- Orellana O., A. et. al. (2013) “Huellas del proceso de metropolización en Chile”, *Revista INVI*, Vol. 28, No. 77, Chile: Instituto de la vivienda de la Facultad de arquitectura y urbanismo, Universidad de Chile, available at: <http://www.revistainvi.uchile.cl/index.php/INVI/article/view/718>
- Ota M., M. (1985) *Siete migraciones japonesas en México, 1890-1978*, México: El Colegio de México.
- Padilla de la Torre, María R. (2008) “Japón en Aguascalientes. Nuevos medios y geografías”, *Investigación y Ciencia*, No. 42, septiembre-diciembre, México: Universidad Autónoma de Aguascalientes, available at: <https://dialnet.unirioja.es/descarga/articulo/6104509.pdf>
- PROMEJ (2015) *Encuesta a migrantes empleados japoneses en el Estado de Guanajuato*.
- Rojas, E. (ed.) (2009) *Construir ciudades. Mejoramiento de barrios y calidad de vida urbana*, Washington D.C.: Banco Iberoamericano de Desarrollo y Fondo de Cultura Económica.
- Romero E., F. (2001) “Factores que provocaron las migraciones de chinos, japoneses y coreanos hacia México: Siglos XIX y XX. Estudio comparativo”, *Revista de ciencias sociales*, No. 90-91, Costa Rica: Universidad de Costa Rica.
- Secretaría de Economía (2018) *Registro nacional de inversión extranjera – Sociedades mexicanas con capital extranjero*, México: Secretaría de Economía, available at: <http://www.datos.economia.gob.mx/InversionExtranjera/Sociedadesmexicanas.xls>
- Urzúa, A., et. al. (2015) “Calidad de vida percibida en inmigrantes sudamericanos en el norte de Chile”, *Terapia psicológica*, Vol. 33, No. 2, Chile: Sociedad Chilena de Psicología Clínica, available at: <https://scielo.conicyt.cl/pdf/terpsicol/v33n2/art08.pdf>
- Velázquez, G. (1998) “La calidad de vida en ciudades intermedias latinoamericanas”, *compilación de CD-ROM, IV Seminario Latinoamericano de Calidad de Vida Urbana*, Argentina: Centro de Investigaciones Geográficas, Facultad de Ciencias Humanas de la Universidad Nacional del Centro de la Provincia de Buenos Aires.
- Velázquez, G. y Cepeda, R. (2004) “Análisis de asociación espacial en variables de calidad de vida en la Argentina”, *Revista Geográfica*, No. 136, Chile: Pan American Institute of Geography and History, available at: <https://www.jstor.org/stable/pdf/40996690.pdf>
- 外務省 (2016) 「海外在留邦人数統計調査 (平成 28 年版)」.  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000191218.pdf>
- (2017) 「海外在留邦人数統計調査 (平成 29 年版)」.  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000293758.pdf>
- 東洋経済新報社 (2016) 「海外進出企業総覧 (国別編) 2016 年版」, 東洋経済新報社
- メキシコ日本商工会議所 (2017) 「メキシコ日本商工会議所住所録 2017」, メキシコ日本商工

會議所